



平成 26 年 4 月 11 日

各 位

上場会社名 株式会社 魚 喜  
代 表 者 代表取締役社長 有吉 喜文  
(コード番号 2683)  
問合せ先責任者 経理部長 堀 弘之  
電話番号 0466-45-9282

### 特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ平成 26 年 2 月期決算において、下記のとおり特別損失を計上するとともに、平成 25 年 4 月 12 日に公表した平成 26 年 2 月期の連結業績予想を修正いたしましたのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 特別損失の計上とその内容

平成 26 年 2 月期第 4 四半期において、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づいて店舗に係る減損損失として 22 百万円を計上いたします。

#### 2. 業績予想の修正

平成 26 年 2 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 25 年 3 月 1 日～平成 26 年 2 月 28 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	14,200	180	160	80	31.32
今回修正予想 (B)	13,825	126	115	29	11.45
増減額 (B-A)	△375	△54	△45	△51	
増減率 (%)	△2.6	△30.0	△28.1	△63.8	
(ご参考) 前期実績 (平成 25 年 2 月期)	13,798	84	74	5	2.33

#### 3. 修正の理由

当連結会計年度におけるわが国経済は緩やかな回復基調となりました。しかし当社グループが事業の主体をおく水産小売業界においては、食の安心・安全に対する関心が一層高まるとともに低価格志向・節約志向が依然として続きました。その影響により、また店舗数の減少も影響し、当社グループの売上高は前期実績を上回るものの前回発表予想にはあと一步及ばない見通しです。

利益面につきましては、乱獲による水産資源の枯渇や異常気象などによる漁獲量の減少に加えて、世界的規模の需要増により魚介類の仕入価格は依然として上昇傾向にあり、利益を圧迫する状況が続いております。このような厳しい経営環境において、当社は収益改善を図るべく、既存店の強化と新規出店（鮮魚 2 店舗）及び不採算店の撤退（鮮魚 4 店舗）をいたしました。また、包装材料コストの縮減を中心とした仕入効率化による原価率の低減並びに要員見直し等による人件費削減及び諸経費の削減を積極的に実施いたしました。

その結果、営業利益、経常利益、当期純利益とも前期実績を大きく上回る見込みであり、大幅な収益改善をすることができました。しかしながら前回発表予想と比較いたしますと、当期純利益においては減損損失計上及び子会社納税負担増等の要因によって予想を下回り、営業利益、経常利益も前回発表予想には及ばない見通しとなりましたので、上記のとおり修正いたします。

※平成 25 年 9 月 1 日付で普通株式 5 株を 1 株の割合で併合しておりますが、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1 株当たり当期純利益を算定しております。

※上記の予想は、本資料の発表日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいております。実際の業績は、様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

以上